

スポーツ功労者顕彰（プロスポーツ分野）

別紙3

過去の受彰者一覧

受彰年度	受彰者名	年齢	競技	受彰種別	功績
平成2年度	花田 勝治（二子山）	62	相撲	多年功労	-
平成2年度	内山 等三（23代木村庄之助）	92	相撲（行司）	多年功労	-
平成2年度	川上 哲治	70	野球	多年功労	-
平成2年度	鶴岡 一人	74	野球	多年功労	-
平成2年度	島 秀之助	82	野球	多年功労	-
平成2年度	保坂 誠	80	野球	多年功労	-
平成2年度	安田 幸吉	85	ゴルフ	多年功労	-
平成2年度	白井 義男	67	ボクシング	多年功労	-
平成2年度	郡司 信夫	82	ボクシング	多年功労	-
平成2年度	都築 俊三郎	74	ボウリング	多年功労	-
平成2年度	北島 忠治	90	ラグビー	多年功労	-
平成3年度	奥山 喜世治（立田川）	68	相撲	多年功労	-
平成3年度	猪方 翼（武隈）	68	相撲	多年功労	-
平成3年度	西本 幸雄	71	野球	多年功労	-
平成3年度	別所 穀彦	69	野球	多年功労	-
平成3年度	中村 實吉	76	ゴルフ	多年功労	-
平成3年度	笛崎 横	76	ボクシング	多年功労	-
平成3年度	保田 隆房	71	競馬	多年功労	-
平成3年度	松本 勝明	63	競輪	多年功労	-
平成3年度	安岐 義晴	60	モーターボート	多年功労	-
平成3年度	中島 悟	38	モータースポーツ	多年功労	-
平成4年度	武岡 一行（鳴戸海 一行）	67	相撲	多年功労	-
平成4年度	熊谷 宗吉（27代木村庄之助）	67	相撲	多年功労	-
平成4年度	苅田 久徳	82	野球	多年功労	-
平成4年度	中上 英雄	74	野球	多年功労	-
平成4年度	山本 増二郎	81	ゴルフ	多年功労	-
平成4年度	三追 仁志	59	ボクシング	多年功労	-
平成4年度	松山 吉三郎	75	競馬	多年功労	-
平成4年度	田中 利衛	75	競馬	多年功労	-
平成4年度	倉田 栄一	60	モーターボート	多年功労	-
平成5年度	後藤 悟（28代木村庄之助）	65	相撲	多年功労	-
平成5年度	千葉 茂	74	野球	多年功労	-
平成5年度	岩本 義行	81	野球	多年功労	-
平成5年度	鈴木 源次郎	78	ゴルフ	多年功労	-
平成5年度	川瀬 三郎	57	サッカー	多年功労	-
平成5年度	布施 正	72	競馬	多年功労	-
平成5年度	新堀 一夫	64	モーターボート	多年功労	-
平成6年度	飯田 寛吉	64	相撲（立呼出）	多年功労	-
平成6年度	飯田 徳治	70	野球	多年功労	-
平成6年度	杉下 茂	69	野球	多年功労	-
平成6年度	林 由郎	73	ゴルフ	多年功労	-
平成6年度	米倉 健司	60	ボクシング	多年功労	-
平成6年度	二本柳 俊夫	74	競馬	多年功労	-
平成7年度	富樫 剛（鏡山）	57	相撲	多年功労	-
平成7年度	納谷 幸喜（大鵬）	55	相撲	多年功労	-
平成7年度	白石 勝巳	77	野球	多年功労	-
平成7年度	石井 茂	74	ゴルフ	多年功労	-
平成7年度	境 勝太郎	75	競馬	多年功労	-
平成7年度	井上 宥哉	74	競馬	多年功労	-
平成8年度	安念 治（立浪）	62	相撲	多年功労	-
平成8年度	藤田 元司	65	野球	多年功労	-
平成8年度	吉井 清	64	ボクシング	多年功労	-
平成8年度	小林 稔	70	競馬	多年功労	-
平成8年度	本田 泰三	61	モーターボート	多年功労	-
平成8年度	尾崎 将司	49	ゴルフ	現役選手	-
平成8年度	伊達 公子	26	ゴルフ	現役選手	-
平成9年度	石井 朝夫	74	ゴルフ	多年功労	-
平成9年度	出川 己代造	79	競馬	多年功労	-
平成9年度	岡本 義則	62	モーターボート	多年功労	-
平成10年度	櫻井 春芳（29代木村庄之助）	62	相撲（行司）	多年功労	-
平成10年度	廣岡 遼朗	66	野球	多年功労	-
平成10年度	吉田 義男	65	野球	多年功労	-
平成10年度	山田 弥助	81	ゴルフ	多年功労	-
平成10年度	山口 弘典	65	ボクシング	多年功労	-
平成10年度	鈴木 一朗	25	野球	現役選手	-
平成10年度	中山 雅史	31	サッカー	現役選手	-
平成11年度	上田 謙三	65	相撲（立呼出）	多年功労	-
平成11年度	稻尾 和久	62	野球	多年功労	-
平成11年度	棚網 良平	78	ゴルフ	多年功労	-
平成11年度	高柳 康成	69	ダンス	多年功労	-

※年齢、功績は受彰当時のもの

受彰年度	受彰者名	年齢	競技	受彰種別	功績
平成11年度	藤川 劳宏	61	モーターボート	多年功労	-
平成11年度	柳岡 鞍	70	ボールルームダンス	多年功労	-
平成12年度	山田 英俊（枝川）	65	相撲	多年功労	-
平成12年度	石井 哲雄	76	野球	多年功労	-
平成12年度	手島 健児	69	競馬	多年功労	-
平成13年度	岡田 勇	66	相撲（床山）	多年功労	元横綱・常ノ花の出羽海部屋に入門、床山として採用される。平成8年には最高階級の特等床山となり、美しく芸術的な大銀杏を結い続けるなど、相撲の伝統・文化の継承に大きく寄与した。
平成13年度	森 錦男	66	相撲（床山）	多年功労	元横綱・双葉山の時津風部屋に入門、床山として採用される。平成13年に引退するまでの52年間、床山を務めるとともに、平成8年には最高階級の特等床山となり、50名以上の床山を統率、後進の指導・育成にも尽力した。
平成13年度	長嶋 茂雄	65	野球	多年功労	昭和33年に巨人に入団。以来、「ミスター・ジャイアンツ」と言われ、強打とハッスルプレーでファンを魅了。今日のプロ野球隆盛に大きく貢献した。昭和63年には野球殿堂入りし、平成5年から巨人の監督に復帰、平成13年に監督業を勇退した。
平成13年度	石井 迪夫	77	ゴルフ	多年功労	戦後のプロゴルファー海外遠征第1号で、昭和31年のワールドカップは個人7位、ペアで4位の好成績を挙げた。日本プロゴルフ協会理事、初代インストラクター委員長を歴任。ゴルフ指導システムの確立に貢献した。
平成13年度	小嶋 鉄治	74	ダンス	多年功労	選手としては世界選手権大会で決勝進出を果たす。引退後は選手育成にあたり、数々の全日本チャンピオンを輩出。世界のダンス統一組織であるワールドダンススポーツ協会の副会長等を務め、競技ダンスの普及、発展に大きく寄与した。
平成13年度	佐々木 竹見	60	競馬	多年功労	15年連続リーディングジョッキーとして君臨し、昭和41年には年間505勝で当時の世界記録を樹立。引退後はNAR地方競馬全選協会参与として、地方競馬教養センターにおいて騎手の指導にあたるなど、地方競馬の発展に大きく寄与してきた。
平成14年度	木本 三次	74	ゴルフ	多年功労	関西を代表するプロゴルファーとして活躍。指導者としては杉原輝雄ら日本を代表する選手を輩出。日本プロゴルフ協会等の役員としてジュニア育成、プロとアマチュアの交流等に尽力し、日本のプロゴルフ界の発展に大きく寄与してきた。
平成14年度	織田 秀樹	60	ボクシング	多年功労	中日ボクシングジムのオーナーに就任以来、吉村則保、ドニー溝口等多くの選手育成に尽力してきた。また、日本プロボクシング協会の改革諮問委員、苦情処理委員の他、多くの委員を兼務し、プロボクシングの普及、発展に貢献した。
平成14年度	林 秀雄	71	ダンス	多年功労	現役引退後、審査員として後輩の指導に当たり、瀬戸健二組など全日本クラスの選手を育成、主に東海地区におけるダンス技術の向上に大きく寄与してきた。また、日本ダンス議会の理事を務め、日本のダンス界において中心的な役割を果たした。
平成15年度	市川 晋松（境川）	65	相撲	多年功労	第50代横綱佐田の山。横綱在位19場所。幕内優勝6回。引退後は出羽海部屋を継承し、横綱三重ノ海を輩出したほか、日本相撲協会理事長を3期6年務め、2度の海外公演を実施するなど、相撲の普及・発展に貢献した。
平成15年度	藤井 義将	73	ゴルフ	多年功労	九州を代表するプロゴルファーとして活躍の後、指導者として尾崎将司など日本を代表するプロゴルファーを育成、指導した。また、関西プロゴルフ協会、日本プロゴルフ協会の理事をあわせて約20年間務め、プロゴルフの普及・発展に貢献した。
平成15年度	樋口 久子	57	ゴルフ	多年功労	日本人初のメジャー大会優勝を果たすなど、女子プロゴルフ界を代表する選手として活躍。日本女子プロゴルフ協会会長に就任し、ジュニアの育成、プロゴルファーの社会的地位の向上など、日本の女子プロゴルフ界の発展に大きく貢献した。2003年に世界ゴルフ殿堂（生涯業績部門）に入りした。

※年齢、功績は受彰当時のもの

受彰年度	受彰者名	年齢	競技	受彰種別	功績
平成15年度	原田 政彦	60	ボクシング	多年功労	史上最年少で世界フライ級王者となり、日本では史上初の二階級制覇を果たした（フライ級とバンタム級）。引退後は全日本ボクシング協会（のち日本プロボクシング協会）の理事、会長を務め、プロボクシングの普及・発展に貢献した。
平成15年度	中川 黙	59	ダンス	多年功労	国内の選手権で7回優勝、世界選手権では4年連続6位入賞を果たすなど日本を代表する選手として活躍。引退後は、橋正幸・弘子組など日本を代表する選手を多数輩出するなど、後進の指導、育成に努め、ダンスの普及・発展に貢献した。
平成15年度	井上 利明	62	モーターボート	多年功労	昭和40年の選手登録以来、38年間選手として第一線で活躍し、モーターボートの振興に貢献した。通算7,862走、2,002勝。長い闘病生活から復帰した後の第12回笠川賞（昭和60年）でSG優勝の他、G1で10回、一般で58回優勝している。
平成16年度	内田 勝男（時津風）	67	相撲	多年功労	学生相撲出身として初の大関となり、大関34場所を務めた。引退後は時津風部屋を継承し、相撲界を代表する力士を多数輩出。また、日本相撲協会の理事、理事長を務め、新弟子検査基準の見直しや横綱審議委員会による稽古絶見の一般無料公開化の実現など、相撲の普及振興に尽力した。
平成16年度	大沢 昭（大沢啓二）	72	野球	多年功労	選手時代は約1000試合に出場。引退後は日本ハムの監督を務め 通算725勝、優勝1回。日本プロ野球OBクラブ会長、全国野球振興会理事長を歴任し、全国少年野球教室やアマチュア野球指導者講習会を実施するなど、野球の普及振興に寄与した。
平成16年度	青木 功	61	ゴルフ	多年功労・現役選手	我が国の男子プロゴルフ界において本格的に海外参戦した草分け的な存在であり、日本人として初めて世界の4大ツアーを含む6つのツアーで勝利。2004年には男子アジア人では初めて世界ゴルフ殿堂（国際投票部門）に入りました。
平成16年度	勝俣 功	67	ゴルフ	多年功労	関東を代表するトッププロとして活躍し、引退後は日本プロゴルフ協会副会長に就任。ツアー競技のルール整備や、多数の新規トーナメントの立ち上げのほか、プロゴルファーによる社会貢献活動を提唱・推進し、ゴルフの社会的評価を高めた。
平成16年度	中島 孝秀	64	ダンス	多年功労	九州を代表する選手として活躍し、引退後は日本ダンス議会理事に就任。個別に活動を行っていた九州ダンス組織の統一を図るなど、西日本及び九州におけるダンスの普及と発展に貢献し、日本のダンス界に大きな方向性を示した。
平成16年度	岩橋 昭一	62	競輪	多年功労	日本競輪選手会理事長を務め、選手の待遇改善に尽力するとともに、競技技術及び資質の向上に努めた。また、日本自転車競技連盟会長に就任し、プロ選手を中心に積極的に海外派遣を行い、国際レベルの選手育成に尽力した。
平成17年度	鎌谷 紀雄（佐渡ヶ嶽）	65	相撲	多年功労	琴桜として活躍し、大関在位32場所の後に横綱に昇進。殊勲賞4回、敢闘賞2回、優勝5回。引退後は佐渡ヶ嶽部屋を継承し、相撲界を代表する力士を多数育てた。日本相撲協会理事を務め、北の湖理事長を補佐しつつ、相撲界の発展に貢献した。
平成17年度	岡本 紗子	54	ゴルフ	多年功労・現役選手	1987年に米女子ツアーで4勝を挙げ、米国LPGAツアー賞金女王、年間最優秀選手に輝いた。ともに米国以外出身の選手としては初となる快挙。2005年に女性初の「国際投票部門」で世界ゴルフ殿堂入り。引退後は日本女子プロゴルフ協会副会長を務め、後進の指導に尽力した。
平成17年度	山田 米造	73	ゴルフ	多年功労	日本プロゴルフ協会理事、副会長、会長を歴任。ティーチングプロの育成に注力し、現在のゴルフレッスンの基礎を作った。レッスンを通じた社会貢献活動を提唱し、チャリティーレッスン会を開催するなど、ゴルフの普及振興に貢献した。
平成17年度	岡部 幸雄	57	競馬	多年功労	中央競馬において18,646競走に騎乗し、2,943勝を挙げる。最多騎乗回数、最多勝利数及び各種最年長記録等を達成。また、日本騎手クラブ会長に選任され、10年にわたり重責を果たすとともに、競馬の健全な発展に大きく貢献した。

※年齢、功績は受彰当時のもの

受彰年度	受彰者名	年齢	競技	受彰種別	功績
平成17年度	加藤 崑二	64	モーターボート	多年功労	46年間にわたり第一線の競艇選手として活躍。出走12,485回、優勝119回、生涯獲得賞金約15億円。競艇界最高峰のSGレースで4勝しているほか、61歳でSGレース優勝戦に出場し、同レース出場の最年長記録を塗り替える快挙を達成した。
平成17年度	篠田 學	71	ポールルームダンス	多年功労	全日本選手権では渡英による不出場を除いて7連勝、国際大会における日本人最多優勝を果たす。著書を多数発刊しポールルームダンスの普及振興に努めた。日本ポールルームダンス連盟の理事を務め、日本のプロ選手の技術向上等に貢献。
平成18年度	石井 富士夫	66	ゴルフ	多年功労	トッププロとして数々の大会に優勝し、引退後は日本プロゴルフ協会理事、副会長、会長、相談役を歴任。後輩プロの指導やアマチュア育成に取り組むとともに、ゴルフ場経営にも参画し、プロゴルファーの地位向上と職域拡大にも寄与した。
平成18年度	矢作 和人	73	競馬（調教師）	多年功労	43年間にわたり地方競馬調教師として活躍。6632戦721勝。優駿の調教に加え、多数の騎手や厩務員を養成した。東京都トレーナー俱楽部の副会長に就任し、競馬の公正確保の維持に努めるとともに、地方競馬の発展に大きく貢献している。
平成18年度	北原 友次	66	モーターボート	多年功労	46年間にわたり第一線の競艇選手として活躍。出走11,250回、歴代2位の優勝163回、生涯獲得賞金約10億円。一流選手の証であるA級選手の座を77期に亘り連続してキープするという大記録も達成。
平成19年度	藤井 正五	67	ゴルフ	多年功労	日本プロゴルフ協会理事、副会長を歴任し、ゴルフを通じた社会貢献活動を積極的に行なった。チャリティ活動の啓発や一般ゴルファーの裾野拡大に取り組み、ゴルフの普及・振興に多大な貢献をした。
平成19年度	高原 永伍	67	競輪	多年功労	通算2,679回出走、941勝。競輪史上初となる年間獲得賞金1000万円以上を達成。引退後、日本競輪学校の名誉教諭として教壇に立ち、オリエンピック等で活躍した選手を含め多数の選手養成に尽力し、競輪及び自転車競技の発展・普及に貢献した。
平成20年度	日向端 隆寿	65	相撲（床山）	多年功労	高砂部屋に入門し50年間研鑽に励み、激しい動きでも崩れない芸術的な大銀杏を結い上げた。2008年には特等床山として初めて番付に載る。床山の講習会を開くなど後進の育成にも熱心であり、相撲界へ多大な貢献した。
平成20年度	王 貞治	68	野球	多年功労	巨人の9連覇、本塁打王15回、最優秀選手9回、2年連続三冠王といった輝かしい成績を残す。巨人、ダイエー(現ソフトバンク)の監督を務め、計4回のリーグ制覇(うち2回は日本一)。1994年に野球殿堂入りを果たす。2006年に開催されたWBCでは日本代表監督を務め、日本代表チームを世界一に導いた。
平成20年度	高田 善裕	65	ゴルフ	多年功労	日本プロゴルフ協会理事、副会長を歴任。チャリティイベントやジュニア育成に注力し、プロ選手によるチャリティ活動参加の啓発や一般ゴルファーの裾野拡大に積極的に取り組むことにより、ゴルフの普及・振興に多大な貢献をした。
平成20年度	大畠 褒	78	サッカー	多年功労	日本サッカー協会スポーツ医学委員長、アジアサッカー連盟医事委員長、国際サッカー連盟スポーツ医学委員を歴任。FIFA初となる世界サッカーへの貢献を称えた「功績認定証」が授与された。また、日本プロサッカーリーグドーピングコントロール委員長としても尽力した。
平成21年度	渡辺 大五郎（東闇）	65	相撲	多年功労	アメリカ・ハワイ州から単身来日し高砂部屋に入門。力士高見山として異国の地で幕内を17年間務め、殊勲賞6回、敢闘賞5回獲得。師匠としても、横綱曙ら後進の育成に尽力。大相撲の国際化の先駆者として相撲界へ多大なる貢献をした。
平成21年度	野村 克也	74	野球	多年功労	本塁打王を複数回獲得し、65年には戦後初の三冠王に輝く。89年には野球殿堂入りを果たし、その後もヤクルト、阪神、楽天の監督を務めた。勝利への様々な工夫や駆け引きを重ね、野球理論・技術の発展など日本野球界に多大なる貢献をした。

※年齢、功績は受彰当時のもの

受彰年度	受彰者名	年齢	競技	受彰種別	功績
平成21年度	藤本 洋司（藤本 黙）	67	キックボクシング	多年功労	東洋ミドル級王座、日本ヘビー級初代王座を獲得。引退後は日黒ジムの会長を務め、指導者としても現在までに数多くのチャンピオンや名選手の育成をしており、キックボクシングの振興に大いに貢献した。
平成22年度	森田 武雄（伊勢ノ海）	64	相撲	多年功労	力士藤ノ川として活躍し、戦後生まれとして最初の幕内力士となった。師匠としても土佐ノ海ら人気力士を育て、後進の育成にも尽力した。また、日本相撲協会の理事に就任し、協会のコンプライアンス強化や相撲の普及振興に大いに貢献した。
平成22年度	松井 功	69	ゴルフ	多年功労	プロゴルファーとして活躍し、91年よりシニア入り。日本プロゴルフ協会の理事、会長を務め、プロゴルフ界の活動をジュニア育成や社会貢献活動と一体化させて推進。プロゴルファーの地位とゴルフの社会的評価の向上に大きく貢献した。
平成22年度	鈴木 孝幸	66	競輪	多年功労	監督として日本選手団を率い、国際大会で多数のメダル獲得。日本自転車競技連盟の理事・副会長、日本競輪選手会理事・理事長を歴任。選手がオリンピック等に向けての強化活動に専念できる環境を整備するなど、自転車競技の振興に貢献した。
平成23年度	杉原 輝雄	74	ゴルフ	多年功労	レギュラー54勝、シニアツアー6勝、ゴールドシニアツアー2勝と数々の勝利を収めた。最年長予選通過記録や、同一大会51回連続出場の世界記録を樹立するなど、多年にわたりプロゴルフ界の発展に多大な功績を残した。
平成23年度	池江 泰郎	70	競馬（調教師）	多年功労	史上初めて天皇賞（春）連覇を成し遂げたメジロマックイーン号、2005年に無敗の三冠馬となったディープインパクト号など、数々の活躍馬を手掛け、中央競馬界の振興に関し多大な功績を残した。
平成24年度	石山 五郎（武蔵川）	64	相撲	多年功労	力士三重ノ海として、16年97場所をかけて横綱昇進を果たす。引退後は武蔵川の師匠として横綱武藏丸ら角界を代表する力士を育成。また、日本相撲協会理事長を務め、薬物禁止の方針の明確化や外部役員の積極登用など相撲界の刷新に尽力。
平成24年度	中尾 豊健	61	ゴルフ	多年功労	プロとして活躍し、シニア入り後も資格認証委員会委員長として全国の講習会を運営する傍ら、長きにわたりシード選手として活躍。また、協会理事としてティーチングプロの育成に注力し、ゴルフの普及・振興に大きく貢献した。
平成24年度	吉田 勇	69	ダンス	多年功労	昭和61年の西日本ダンス選手権大会ラテン部門での優勝を最後に現役引退。その後は日本ダンス議会の理事職、九州総局局長に就任し、地方へのダンス普及、発展とともに日本のダンス文化の向上に大きく貢献した。
平成24年度	福永 達夫	64	モーターボート	多年功労	「SG第4回賞金王決定戦競争」の優勝をはじめ、44年間ボートレーサーとして第一線で活躍。モーターボート選手会の理事長、会長に就任しボートレースの発展に大きく寄与した。
平成25年度	山崎 敏廣（36代木村庄之助）	65	相撲（行司）	多年功労	49年間行司として研鑽に励み、平成23年には行司の最高位・木村庄之助として1年半、結びの一番を裁いた。人格・識見に優れ、凜とした声と態度、姿の良さ、正確な裁きで名行司と評判が高く、相撲文化の向上に大きく貢献した。
平成26年度	澤田 畏（増位山）	65	相撲	多年功労	力士増位山として技能賞を5回獲得。引退後は、審判部副部長、日本相撲協会監事、副理事を務めるなど、相撲界に大きな貢献をした。
平成26年度	浅見 勝一	76	ゴルフ	多年功労	日本プロゴルフ協会の会長に就任し、「プロゴルフファン感謝デー」の開催など、ファンとの交流、正しい指導、社会貢献活動を目的にした事業進めることで、ゴルフの社会的評価を高め、日本のプロゴルフ界の発展に大いに貢献した。

※年齢、功績は受彰当時のもの

受彰年度	受彰者名	年齢	競技	受彰種別	功績
平成26年度	瀬戸 健二	69	ダンス	多年功労	1978年には全英選手権において最終予選に進出するなど、プロとして活躍。日本ダンス議会常務理事、副会長、審査委員会委員長を歴任し、ダンス競技会における審査員のクオリティを高めることに大きく貢献した。
平成26年度	松山 康久	71	競馬（調教師）	多年功労	史上3項目となった3冠馬「ミスターшибー号」をはじめ、多数の活躍馬を管理し、1994年には日本中央競馬会最多勝利調教師賞を受賞するなど、偉大な功績を残した。また、日本調教師会の役員を務め、競馬の健全な発展に貢献した。
平成26年度	国枝 慎吾	30	車いすテニス	多年功労・現役選手	バラリニックでの2度のシングルス金メダル獲得、男子初のシングルス107連勝、4度のシングルス年間グランスマッチ達成など輝かしい成績を残し、車いすテニスのみならず障害者スポーツの普及振興に大きく貢献した。
平成27年度	杉本 英世	77	ゴルフ	多年功労	1964年日本オープン優勝をはじめ、プロゴルファーとして活躍。日本プロゴルフ協会理事、副会長を務め、プロゴルファーの地位の向上とスポーツとしてのゴルフの社会的認知度を高めるなど、日本プロゴルフ界の発展に大きく寄与した。
平成27年度	鈴木 康弘	71	競馬（調教師）	多年功労	通算795勝（うち重賞競走27勝）の成績を残し、中央競馬に偉大な功績を残した。日本調教師会会長、名誉会長として重責を果たし、競馬の健全な発展に大きく貢献した。
平成27年度	桑島 孝春	60	競馬	多年功労	約40年間で日本最多の通算40,223戦4,713勝の成績を残す。引退後は地方競馬全国協会参与として、地方競馬の公正確保関係のアドバイザーとして尽力し、地方競馬の発展、レベルアップに大きく貢献。
平成28年度	石田 佳員（鷺羽山）	67	相撲	多年功労	昭和42年に初土俵、昭和51年に関脇昇進。敢闘賞3回、技能賞を5回受賞した。引退後は出羽海親方として弟子の育成に力を注ぐ一方、日本相撲協会の理事を12年務め、事業部長として理事長を補佐し、日本相撲界の発展に尽力した。
平成28年度	内田 棟	100	ゴルフ	多年功労	幼少期からキャディ、コースメンテナンスに携わる。55歳からプロゴルファーとなり、その後永年にわたってゴルフ場運営、ゴルフ指導などを通じて日本のゴルフの普及に貢献した。
平成28年度	橋口 弘次郎	71	競馬（調教師）	多年功労	歴代16位となる通算991勝を達成した。また、管理馬が日本ダービーを含むG1通算11勝を挙げるなど、中央競馬の健全な発展に大きく貢献し、平成28年にはJRAの顕彰者としても表彰され、中央競馬の殿堂入りを果たした。
平成29年度	中嶋 常幸	63	ゴルフ	多年功労	22歳で戦後最年少となる日本プロ制覇を果たす。シニアでは日本シニアオープンで3度の優勝。その後、10~17歳のジュニアを対象に「ヒルズゴルフトミーアカデミー」を主宰し、ジュニアゴルファーの発掘、育成にも力を注ぐ。
平成29年度	菅原 義正	76	モータースポーツ	多年功労	1992年にトラック部門に転向し、総合優勝6回、クラス優勝7回、2009年大会までの完走率は100%を誇る。2009年に連続完走（20回）、連続出場の2項目でギネスに記録された。
平成30年度	野村 双一（出羽の花）	67	相撲	多年功労	学生横綱という輝かしい実績で入門、三賞を10回獲得し、三役を19場所務めた。引退後は力士の育成に力を注ぐ一方、理事・広報部長として在任中に80日間連続満員御礼を達成するなど、現在の大相撲人気の礎を築き、協会の発展に尽力した。
平成30年度	陳 清波	87	ゴルフ	多年功労	マスターズでは6年連続で予選通過、シニアでも多数の優勝など長らくトッププロとして活躍。陳氏を慕い日本に渡った台湾出身の選手も多く、両国の架け橋として大きな役割を果たした。また、執筆活動やテレビ出演を通じゴルフの普及に貢献。

※年齢、功績は受彰当時のもの

受彰年度	受彰者名	年齢	競技	受彰種別	功績
平成30年度	尾形 充弘	71	競馬（調教師）	多年功労	本年の引退までに通算800勝（うち重賞23勝）という輝かしい成績を残すとともに、日本調教師会会長を務めるなど偉大な功績を残した。また、管理馬であるグラスワンダー号が有馬記念などGI通算4勝を挙げ中央競馬の発展に大きく貢献した。
平成30年度	二ノ宮 敬宇	66	競馬（調教師）	多年功労	通算676勝（うち重賞競走30勝）など輝かしい成績を残すとともに、日本調教師会会長を務めるなど偉大な功績を残した。また、管理馬であるエルコンドルバーサ号らがフランスの凱旋門賞で2着を収めるなど、中央競馬の発展に大きく貢献した。
平成30年度	的場 文男	62	競馬	多年功労	2018年には通算7,152勝を達成し、17年振りに日本記録を更新した。重賞については、38年連続重賞勝利を含む、通算154勝を上げた。今年も既に重賞勝利を上げ、自身の持つ最高齢勝利記録を更新し続けている。
令和元年度	西野 政章（友綱）	57	相撲	多年功労	力士魁輝として活躍し、敢闘賞を1回受賞した。引退後は友綱部屋の師匠として大関・魁皇、昭和以降最年長優勝の旭天鵬など長くファンに親しまれる力士を育成した。また、日本相撲協会の理事を8年間務めるなど、協会の発展に尽力した。
令和元年度	長田 力	67	ゴルフ	多年功労	岐阜オープン優勝をはじめプロゴルファーとして活躍する傍ら、所属するゴルフ場において小田孔明ら後進の指導にも従事した。また、日本プロゴルフ協会の会長を務め、試合数や賞金総額の増加など、日本プロゴルフ界の発展に大きく寄与した。
令和元年度	武 豊	50	競馬	現役選手	JRA史上最年少での4歳（現3歳）五大クラシック競争を制覇、JRA所属騎手として初の海外GI競走制覇、2018年には前人未踏のJRA通算4000勝の達成をはじめ、我が国の競馬史上において、燐然と輝く数々の記録を打ち立ててきた。
令和元年度	中村 均	71	競馬（調教師）	多年功労	1988年にはJRA賞（優秀技術調教師）を受賞し、引退までに722勝（歴代49位（当時））を上げるなど長く活躍した。その後、日本調教師会会長を3期6年間にわたり務め、JRAや馬主などの競馬関係者の橋渡し役として多大なる貢献をした。
令和元年度	高橋 国光	80	モータースポーツ	多年功労	二輪レースで世界大会進出、自動車レースでは4年間で50勝を達成するなど活躍。引退後は当時我が国最大の自動車レースの運営団体である株式会社GTアンサンエイションの会長を10年以上務め、二輪・四輪の競技への発展に大きく貢献した。
令和4年度	津田 雅彦	65	ダンス	多年功労	全英選手権やUK選手権への複数回出場などで活動する傍ら、自らダンススクールも開校し競技の普及やプロ選手の育成に尽力。また、日本ダンス議会のブラインドダンス委員会委員長として、障害者スポーツの振興にも大きく貢献した。
令和4年度	星野 一義	75	モータースポーツ	多年功労	全日本耐久選手権優勝など活躍。引退後は自ら立ち上げたレーシングチームの監督として国内最高峰の自動車レースに参戦し多くのチームチャンピオンを獲得するなど、若手ドライバーの育成に力を注ぎ、モータースポーツ振興に大きく貢献した。
令和4年度	長谷見 昌弘	77	モータースポーツ	多年功労	長年にわたり国内レースで優勝・年間チャンピオンを獲得。引退後は指導者として日本を代表するドライバーを多数育成。日本自動車連盟では競技規則等を定めるモータースポーツ審議会委員を務め、モータースポーツの人気向上と発展に貢献した。
令和4年度	平 忠彦	66	モーターサイクルスポーツ	多年功労	全日本選手権3連覇をはじめトップライダーとして活躍。日本モーターサイクルスポーツ協会の理事を務め、「東北復興応援ツーリング」など社会貢献活動も積極的に実施し、モータースポーツサイクルの社会的認知の向上に大きく貢献した。
令和4年度	坂口 征二	80	プロレス	多年功労	北米ヘビー級王座の獲得など活躍。アメリカプロレス団体との交流戦の実現をはじめ、プロレスを通じた国際交流やプロレスの普及・振興に尽力した。また、育成にも注力し、有名レスラーを多数輩出するなど日本のプロレス界の発展に貢献。

※年齢、功績は受彰当時のもの

受彰年度	受彰者名	年齢	競技	受彰種別	功績
令和4年度	武藤 敬司	60	プロレス	多年功労	国内ではトップレスラーとして君臨。アメリカプロレスにも参戦し世界中のファンも魅了した。全日本プロレスやGENスポーツエンターテインメントの社長としてエンタメ性溢れる新しい視点での取組を行い、プロレス界の発展に大きく貢献。
令和5年度	館 信秀	76	モータースポーツ	多年功労	マカオ・グランプリ連覇など国内外で活躍。引退後はチーム経営と後進の育成に専念し、多数のトップドライバーを輩出したほか、日本自動車連盟理事事を務めるなど、様々な立場からモータースポーツ界の普及・振興・発展に貢献した。
令和5年度	東福寺 保雄	67	モーターサイクルスポーツ	多年功労	全日本モトクロスチャンピオン9度獲得などトップライダーとして活躍。引退後は指導者として若手の育成に取り組み、多くの国際ライダーを輩出。レディースクラスチャンピオンも誕生するなど、モーターサイクルスポーツ振興に大いに貢献。
令和5年度	綾部 美知枝	75	サッカー	多年功労	女性で初めてサッカーの指導者資格を獲得し、女性のサッカー指導者の草分け的な存在となる。日本サッカー協会初の女性理事に就任し、女子の年齢別の大会の立ち上げや日本女子サッカーリーグの発足など女子サッカーの振興に大きく貢献した。
令和6年度	勝田 照夫	81	モータースポーツ	多年功労	選手として、全日本ラリー選手権ドライバーデ部分で年間チャンピオンを獲得などを果たした。引退後は、指導者としてラリードライバーを育成する一方、ラリー競技運営においては、地域活性化のモデルプランの確立や、国際大会の国内誘致にも尽力した。
令和6年度	中山 浩一	67	相撲	多年功労	力士「琴風」として184センチ、168キロの体格を活かし、三回の優勝を果たした。力士を引退後は、尾車部屋の師匠として弟子の育成に力を注ぐ傍ら、日本相撲協会の理事を10年務め、事業部長として理事長を補佐し、相撲界の発展に尽力した。
令和6年度	成田 省造	80	モーターサイクルスポーツ	多年功労	モーターサイクルスポーツの一つである「トライアル競技」を日本で形成し牽引した。また大会出場経験を活かし、ツーリングトライアルの拡大と開催地の町・村おこしに寄与した。
令和6年度	姫路 麗	46	ボウリング	多年功労	選手として、14年ぶり9人目のJPBAトーナメント通算20度目の優勝と永久シード権を獲得などの結果を残している。その傍ら、被災地復興への寄付を目的としたチャリティボウリング大会への参加等、社会貢献にも尽力している。
令和6年度	増岡 浩	64	モータースポーツ	多年功労	世界一過酷なラリーと言われるダカールラリーに合計21回参戦。2002年、2003年には日本人として初の2連覇を飾り、所属チームの7連覇、通算12勝など顕著な功績を残し、モータースポーツの認知度向上に寄与した。
令和6年度	水谷 隼	35	卓球	多年功労	長きにわたりプロ卓球選手として活躍し、海外経験も豊富で、様々な功績を残した。東京2020オリンピック競技大会では、混合ダブルスにおいて日本卓球界初の金メダル獲得を果たし、トーナメントの価値を示すとともに、人気向上に貢献した。

※年齢、功績は受彰当時のもの